

2016年夏季「物価と消費に関するアンケート」結果
暮らし向きは1年半ぶりに悪化し、先行きも悪化の見通し
「預貯金、投資」志向高く、節約意識も幅広い

㈱滋賀銀行のシンクタンクである ㈱しがぎん経済文化センター（大津市、取締役社長 中川 浩）は、滋賀銀行の店頭にご来店の女性を対象に「2016年夏季・物価と消費に関するアンケート」調査を行い、その結果をまとめた。

なお今回、特別項目として「消費税増税の再延期について」の調査も行った。

【調査の概要】

- ・調査名：「2016年夏季・物価と消費に関するアンケート」
- ・調査時期：2016年6月14日(火)～16日(木)の3日間
- ・調査対象：滋賀銀行の本支店にご来店の女性（県内在住者のみ）
- ・有効回答数：703人 { うち29歳以下：112人、30代：128人、40代：169人
50代：141人、60歳以上：153人 }

【調査結果の要旨】

1. 定例項目

- (1) **【暮らし向きDI】…1年半ぶりに悪化。今後さらに悪化する見通し**
 - ・現在の「暮らし向きDI」は-16.6で、前回(-11.9)から4.7ポイント低下。
 - ・半年後は-22.4で、現状から-5.8ポイントとさらに大きく悪化にする見通し。
- (2) **【世帯収入DI】…2期連続で悪化**
 - ・現在の「世帯収入DI」は-11.2と前回(-10.1)から1.1ポイント低下し、2期連続悪化。
 - ・半年後は-15.0で、現状からさらに3.8ポイント低下する見通し。
- (3) **【物価DI】…大きく低下し、3年ぶりに+70を下回る**
 - ・現在の「物価DI」は+67.6で、前回(+74.3)から-6.7ポイントと大きく低下。
 - ・半年後は+63.1で、現状から-4.5ポイントとさらに低下する見通し。
- (4) **【耐久消費財の購入】…“(やや)良くなる”再び1割を下回り、厳しい状態続く**
 - ・「良くなる」「やや良くなる」の合計が7.5%と、前回(10.8%)から3.3ポイント減少し、再び1割を下回った。「悪くなる」「やや悪くなる」の合計は32.2%で、前回(34.7%)から2.5ポイント減少。
 - ・「変わらない」は60.3%で、前回(54.6%)から5.7ポイント増加。依然、厳しい状態が続く。
- (5) **【世帯の消費行動】…強い「預貯金、投資」志向。節約意識は幅広く**
 - ・「増やしたいもの」は「預貯金、投資」が61.5%。次いで「子どもや孫の教育費」(33.9%)、「旅行、レジャー」(28.7%)、「趣味、教養、自己啓発費(習い事など)」(25.1%)が続いた。
 - ・「減らしたいもの」は「光熱・水道費」(54.8%)が最も多く、次いで「外食」(53.4%)、「食料品(日々の食費)」(51.0%)で5割を、「通信費」「衣類、ファッション」で4割を超えた。

2. 特別項目：消費税増税の再延期について

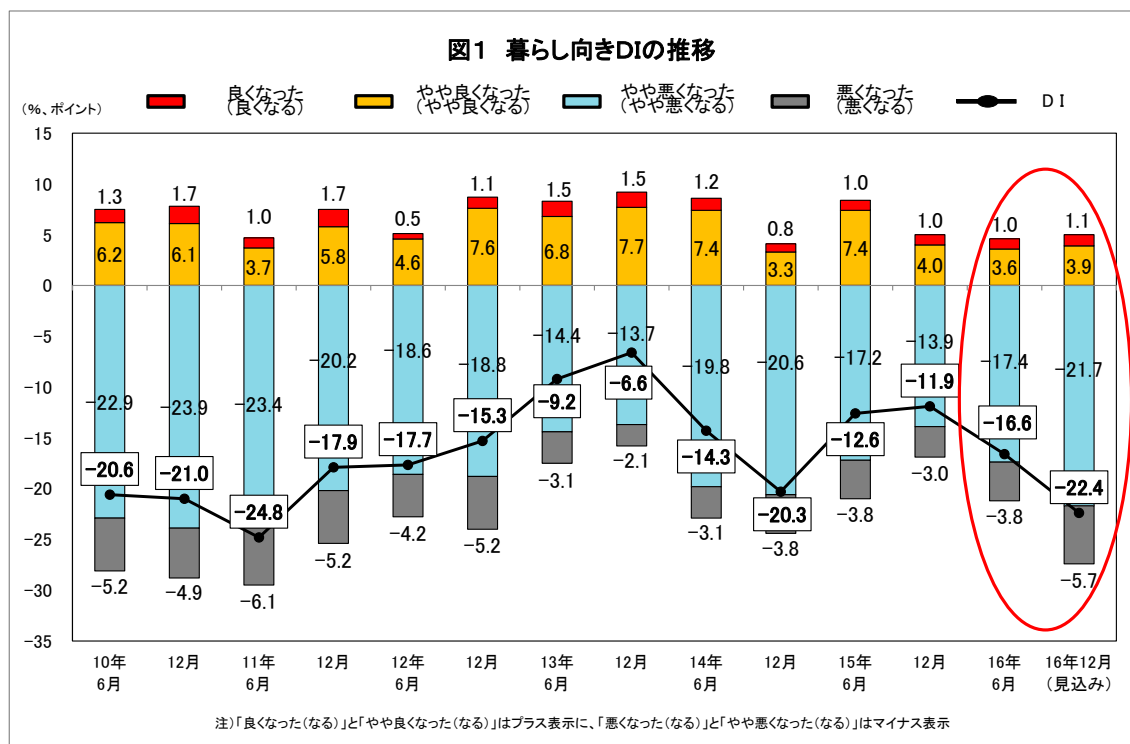
- (1) **消費増税の再延期『支持する』合計は5割**
 - ・消費増税の再延期について、「支持する」と「どちらかというど支持する」を合わせた『支持する』の合計は、51.7%と、全体の5割を超えた。「支持しない」と「どちらかというど支持しない」を合わせた『支持しない』は12.2%。「どちらでもない」は3割。
- (2) **増税再延期を『支持する』理由は「家計への負担を抑えられるから」が8割**
 - ・増税再延期を『支持する』と回答した人の理由は、「家計への負担を抑えられるから」(82.8%)が圧倒的に多く8割を超えた。『支持しない』と回答した人は、「社会保障の充実が期待できず、将来に不安を感じるから」が58.8%と約6割。
- (3) **増税再延期でも家計の支出は「変わらない」が7割**
 - ・増税再延期でも今後の家計消費は「変わらない」(70.6%)が7割を占めた。「支出を減らす」との回答は2割。「支出を増やす」はわずか3.3%となった。
- (4) **家計支出が「変わらない」理由は、「いずれ増税があることに変わりはないから」**
 - ・家計支出が「変わらない」理由は、「いずれ増税があることに変わりはないから」(58.9%)が6割を占めた。「支出を減らす」と回答した人の理由は、「節約を強めたいから」(53.6%)が最も多く、「将来への不安が増したから」(37.7%)も4割近くに達した。

1. 定例項目

(1) 【暮らし向きDI】…1年半ぶりに悪化。今後もさらに悪化する見通し

現在（2016年6月）の「暮らし向きDI」（「良くなった」「やや良くなった」と回答した割合から「悪くなった」「やや悪くなった」と回答した割合を引いた値）は-16.6となり、前回（15年12月：-11.9）から-4.7ポイントと、1年半ぶりに悪化に転じた。

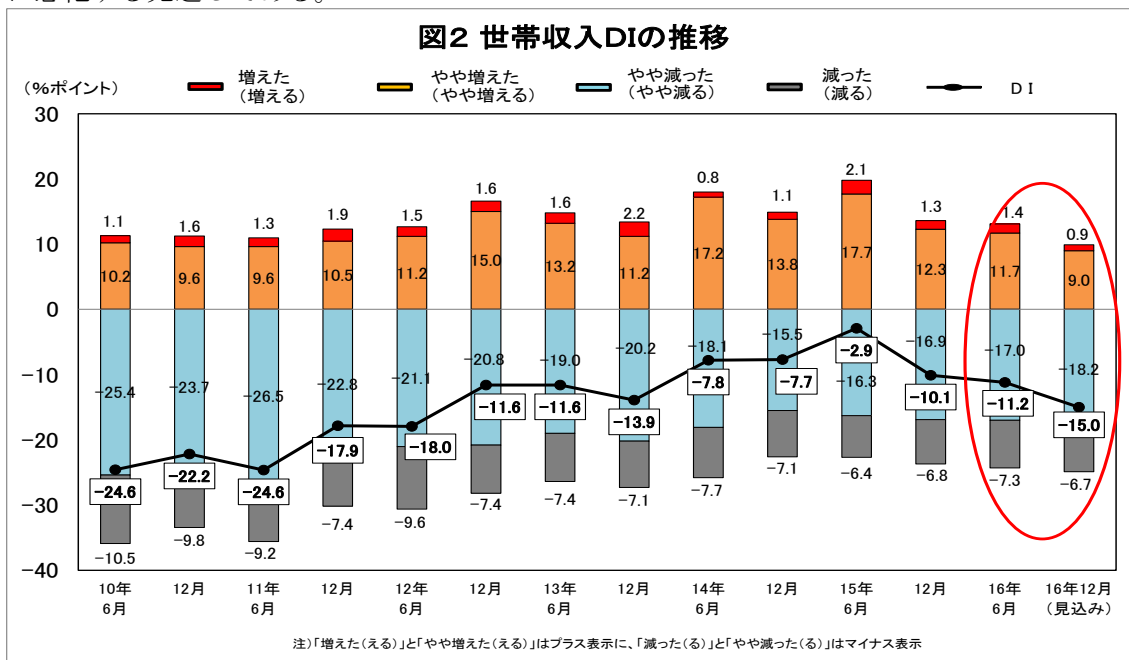
半年後については、「やや悪くなる」「悪くなる」とともに増加し、全体では現在から5.8ポイント低下の-22.4と、さらに大きく悪化する見通しである。



(2) 【世帯収入DI】…2期連続で悪化

現在の「世帯収入DI」（「増えた」「やや増えた」と回答した割合から「減った」「やや減った」と回答した割合を引いた値）は-11.2で、前回（15年12月：-10.1）から1.1ポイント低下し、2期連続で悪化した。

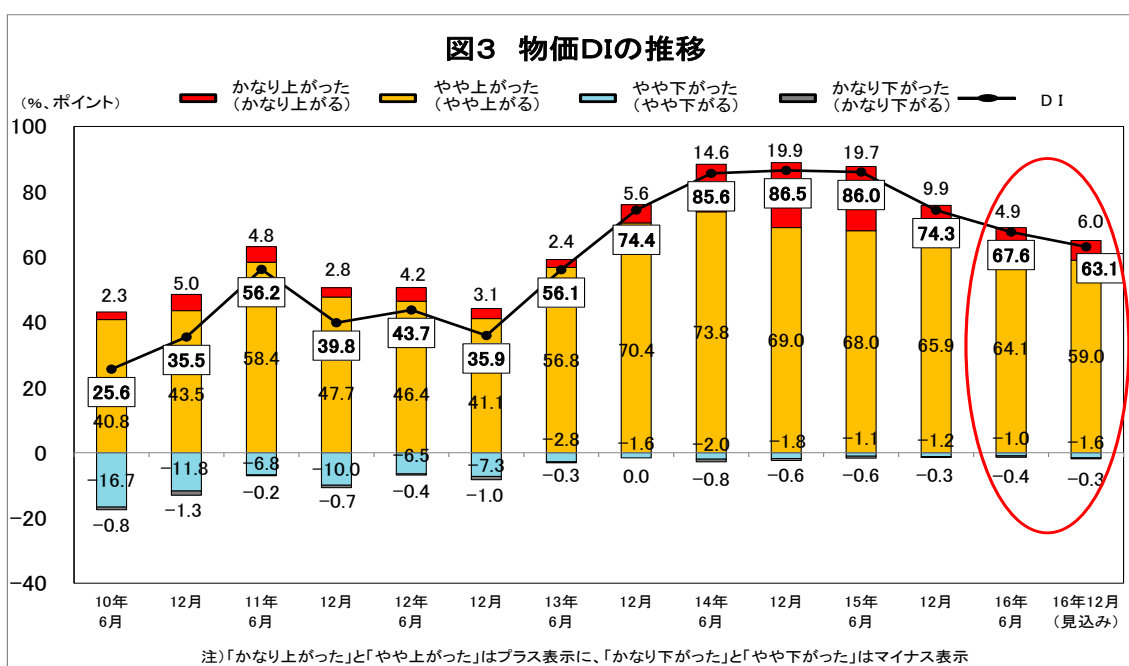
半年後の「世帯収入DI」は-15.0で、現在（-11.2）から3.8ポイント低下し、さらに悪化する見通しである。



(3) 【物価DI】…大きく低下し、3年ぶりに+70を下回る

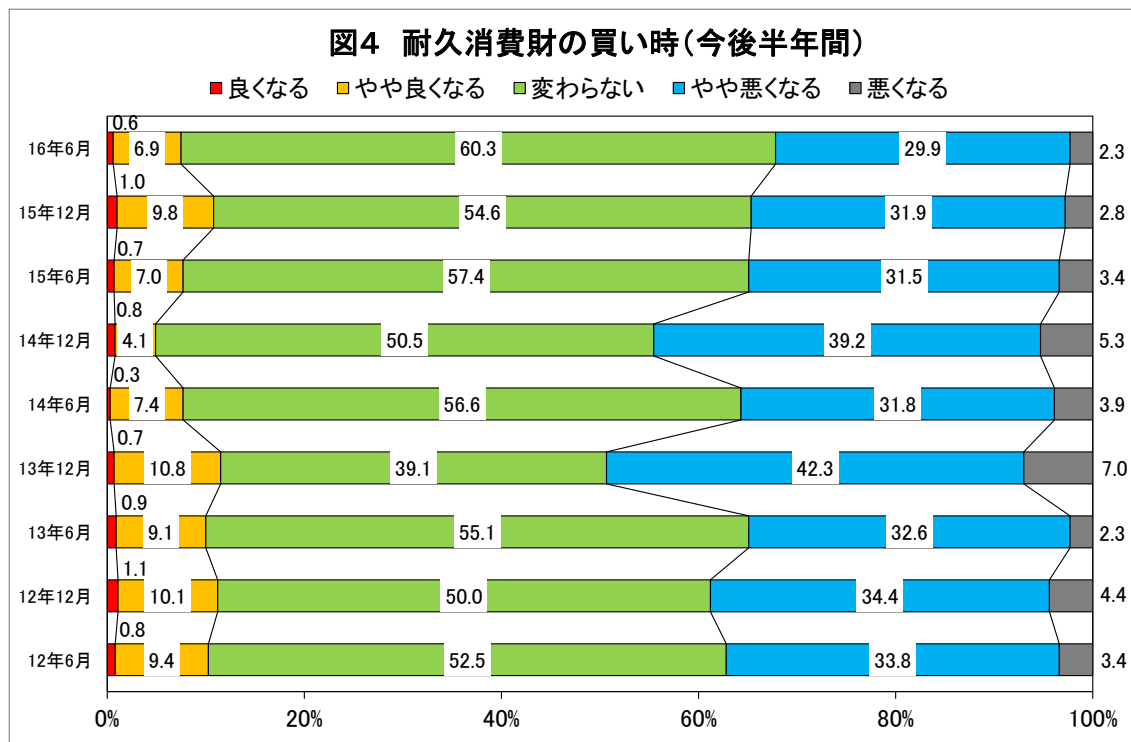
現在の「物価DI」（「かなり上がった」「やや上がった」と回答した割合から「かなり下がった」「やや下がった」と回答した割合を引いた値）は+67.6となった。前回（15年12月：+74.3）から-6.7ポイントと大きく低下し、丸3年ぶりに+70を下回った。「かなり上がった」の割合が大きく低下しており、物価上昇への意識はあるものの、やわらぎつつある。

半年後の「物価DI」は+63.1で、現在（+67.6）から-4.5ポイントとさらに低下する見通しである。



(4) 【耐久消費財の購入】… “(やや)良くなる” 再び1割を下回り、厳しい状態続く

「耐久消費財の買い時として、今と比べて今後半年間でどうなると思うか」については、「良くなる」「やや良くなる」の合計が7.5%と、前回(15年12月:10.8%)から3.3ポイント減少し、再び1割を下回った。また「悪くなる」「やや悪くなる」の合計は32.2%で、前回(34.7%)から2.5ポイント減少した。「変わらない」は60.3%で、前回(54.6%)から5.7ポイント増加。依然、厳しい状態が続く。

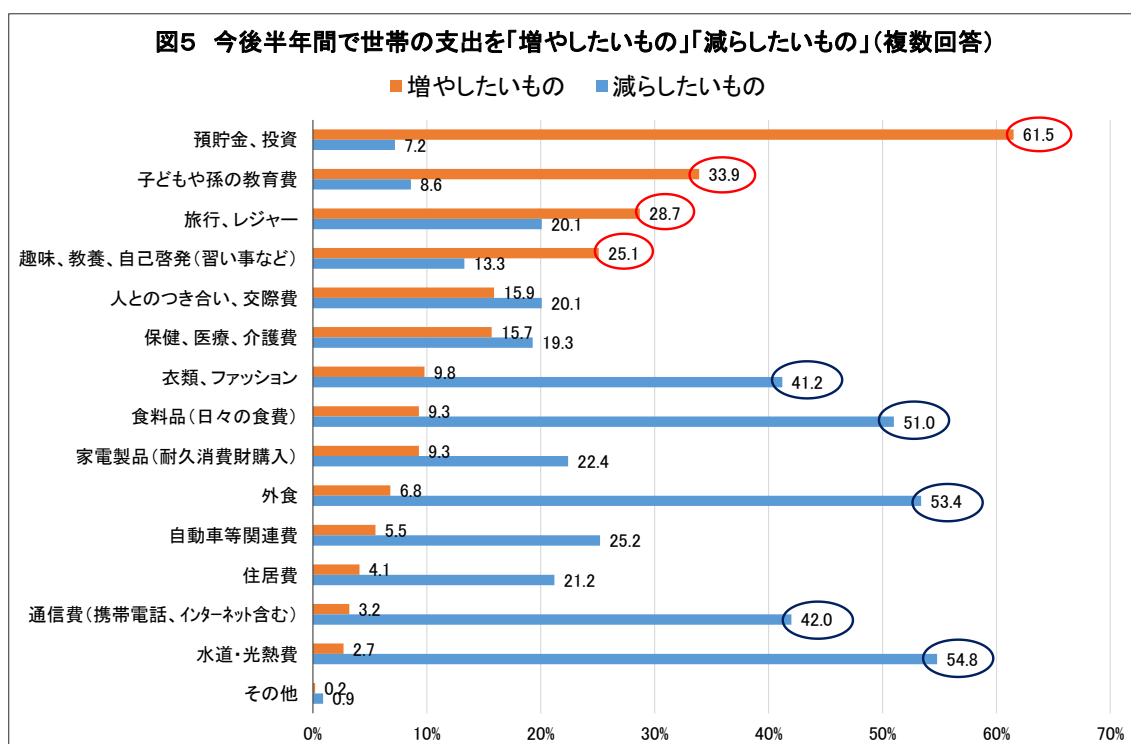


(5) 【世帯の消費行動】… 強い「預貯金、投資」志向。節約意識は幅広く

今後半年間の世帯の支出について、支出を「増やしたいもの」「減らしたいもの」を尋ねた（複数回答）。

「増やしたいもの」では「預貯金、投資」が61.5%と飛び抜けて高く、6割を超えた。暮らし向きや世帯収入に対する厳しい意識を反映して、貯蓄志向の強さがうかがえる。次いで「子どもや孫の教育費」（33.9%）、「旅行、レジャー」（28.7%）、「趣味、教養、自己啓発費（習い事など）」（25.1%）が続いた。

一方「減らしたいもの」では「光熱・水道費」（54.8%）が最も多くなり、次いで「外食」（53.4%）、「食料品（日々の食費）」（51.0%）で5割を、「通信費」（42.0%）、「衣類、ファッション」（41.2%）でも4割を超えた。日常の生活費から衣服や外食といった非日常的な商品・サービスまで、節約意識は幅広い項目にわたっている。

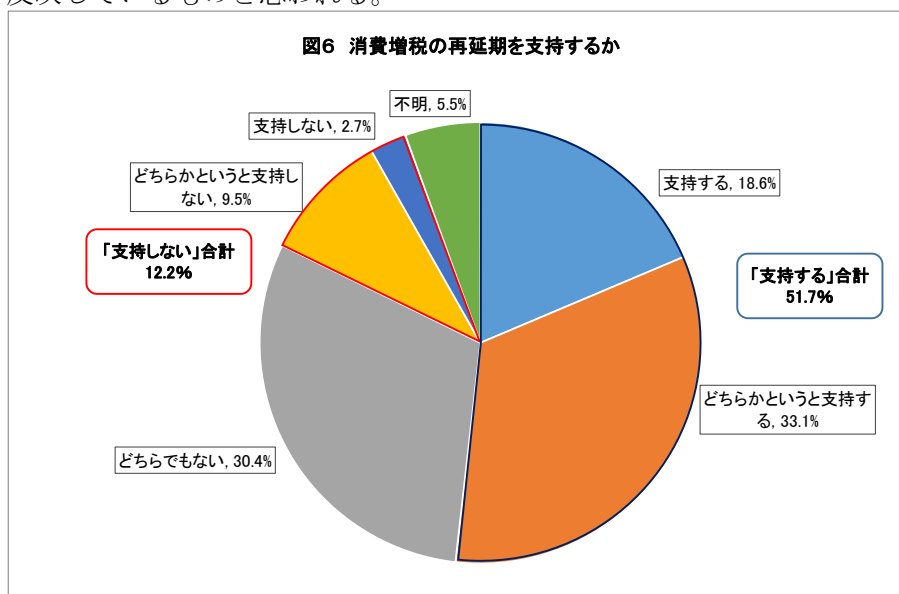


2. 特別項目：消費税増税の再延期について

2017年4月に予定されていた消費税率10%への引き上げが2019年10月に先送り（再延期）となったことに関連して、消費に関する意識が変化したかを尋ねた。

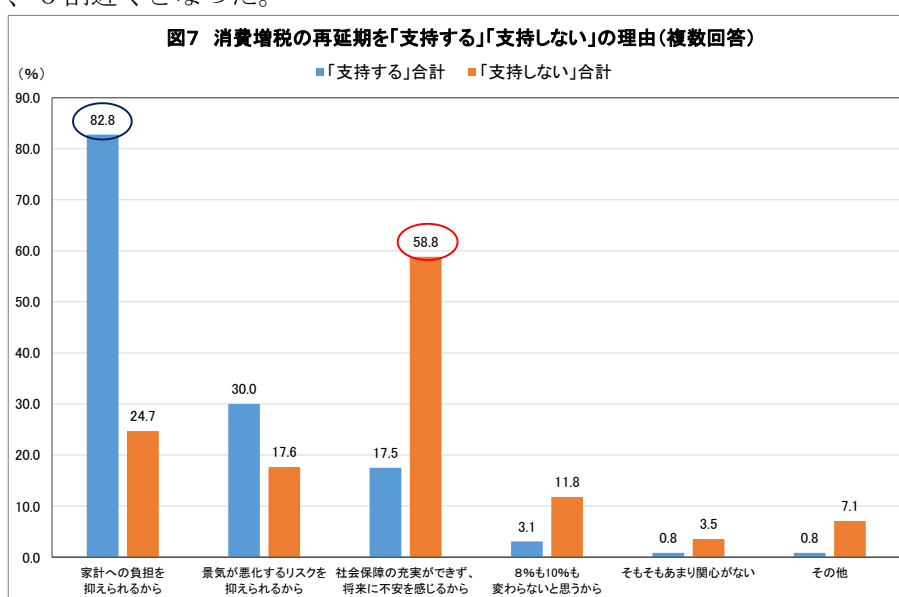
(1) 消費税増税の再延期『支持する』合計は5割

消費税増税の再延期を支持するかどうか尋ねたところ、「支持する」と「どちらかという支持する」を合わせた『支持する』の合計は、51.7%と、全体の5割を超えた。「支持しない」と「どちらかという支持しない」を合わせた『支持しない』は12.2%であった。一方、「どちらでもない」(30.4%)が3割を占め、“支持する・支持しない”では割り切れない心理を反映しているものと思われる。



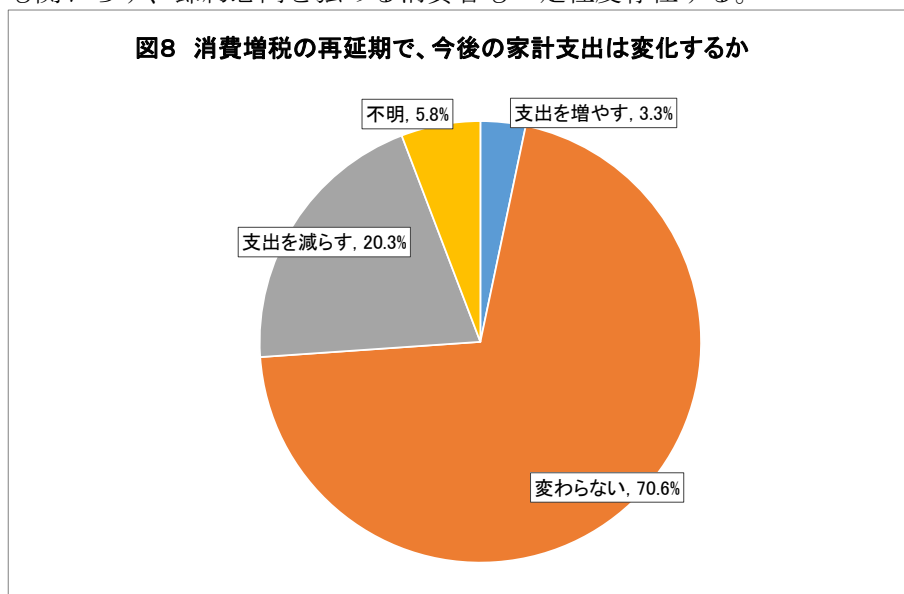
(2) 増税再延期を『支持する』理由は「家計への負担を抑えられるから」が8割

前問の回答に対する理由を尋ねたところ、消費税増税の再延期を『支持する（どちらかという支持する、を含む）』と回答した人は、「家計への負担を抑えられるから」(82.8%)が圧倒的に多く8割を超えた。一方、『支持しない（どちらかという支持しない、を含む）』と回答した人は、「社会保障の充実が期待できず、将来に不安を感じるから」(58.8%)が最も多く、6割近くとなった。



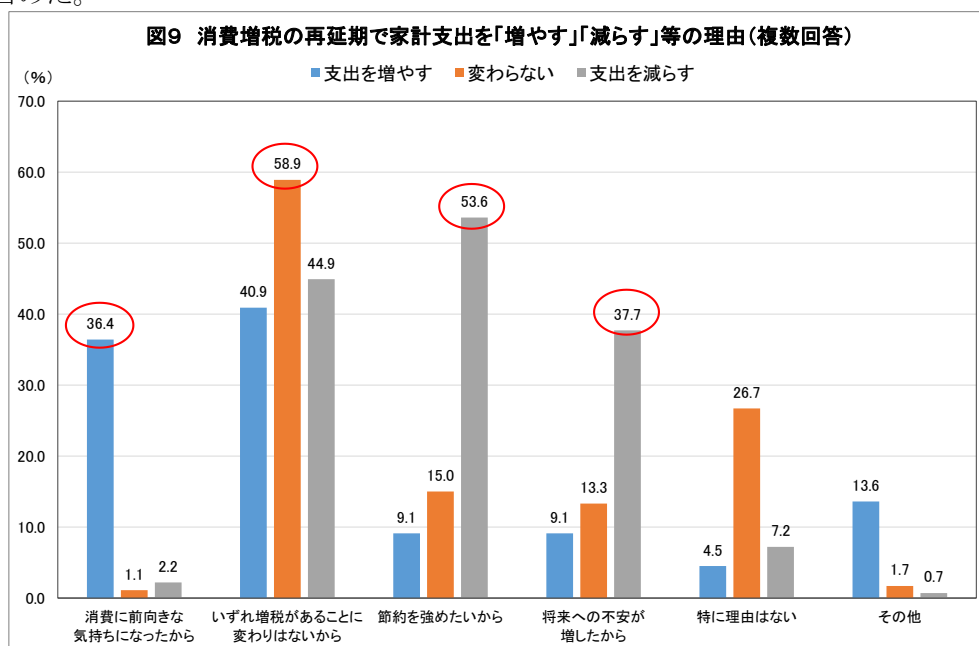
(3) 増税再延期でも家計の支出は「変わらない」が7割

消費増税の再延期で今後の家計消費が変化するかを尋ねたところ、「変わらない」との回答が70.6%と7割を占めた。また、「支出を減らす」との回答も2割を占めた一方で、「支出を増やす」はわずか3.3%にとどまった。支出の変化はほとんどなく、当面の増税はなくなったにも関わらず、節約志向を強める消費者も一定程度存在する。



(4) 家計の支出が「変わらない」理由は、「いずれ増税があることに変わりはないから」

前問の回答に対する理由を尋ねたところ、7割を占めた「変わらない」との回答では、「いずれ増税があることに変わりはないから」(58.9%)が最も多く、約6割となった。「支出を減らす」と回答した人は、「節約を強めたいから」(53.6%)が最も多く、「将来への不安が増したから」(37.7%)も4割近くに達した。増税の再延期により、財布のヒモが緩む気配は薄い。「支出を増やす」と回答した人は、「消費に前向きな気持ちになったから」(36.4%)との理由が多くなったが、「いずれ増税があることに変わりはないから」(40.9%)も同程度を占めた。



本調査結果に関するお問い合わせ先：(株)しがぎん経済文化センター
産業・市場調査部 長山 (TEL 077-523-2245)